

「あかりみらいが危機管理フォーラム 巨大地震で起こる津波被害を考える」

LED・節電、新型コ
ロナウイルス、防災・停
電の対策、コンサルタン
トを事業の柱とするあか
りみらい（本社・札幌市、
越智文雄社長）は3月9
日、日本海溝・千島海溝
大地震の津波災害を考え
る「北海道防災危機管理
フォーラム2022」を
北海道経済センターで開
く。（3月5日現在）



▲越智文雄氏

本誌発売時はおそらく
このフォーラムは終わっ
ていると思われるが、期

このフォーラムは終わっ
ていると思われるが、期
して2回延長された。北
海道はさらに3月21日ま
で再延長となったが今回
はあえて開催する。「最
大13万7000人が亡く
なるシミュレーションが

日の関係で内容はお伝え
できない。

あかりみらい社長の越
智文雄氏は危機管理のス
ペシャルリストだ。本誌先
月号では、昨年12月に内
閣府の中央防災会議が日
本海溝と千島海溝沿いで
マグニチュード9級の巨
大地震が起きた際の被害
想定を発表したことを受
け、「数十分が住民の命
を左右する」と越智氏の
緊急提言を掲載した。

フォーラムの開催はま
ん延防止等重点措置によ
って2回延長された。北
海道はさらに3月21日ま
で再延長となったが今回
はあえて開催する。「最
大13万7000人が亡く
なるシミュレーションが

さされているのに、オミク
ロン株を恐れすぎ、津波
対策の準備を何にもしな
かったとなると危機管理
の本末転倒（越智氏）
という考えからだ。「北
海道にとって史上最悪の
想定を突きつけられ、自
治体ではどのような対策
が議論されているのか。
津波被害を受ける沿岸部
の企業や店舗、ホテル、
工場などもその日のため
の避難マニュアルと救命
資材を備え、BCP（事
業継続計画）を真剣に考
えなくてはならない」と
越智氏は力説する。

フォーラムは第1部が
講演。北大広域複合災害
研究センター特任教授の
岡田成幸氏が「被害想定

の現状と進化
する複合災害
への課題」を
話し、気象予
報士・防災士
の菅井貴子さ
んが「自然災
害と北海道の
気候変動」に
ついて、防災
士の水口綾香
さんが「コロ
ナ感染下にお
ける避難所運
営」について
それぞれ述べ、
危機管理アド
バイザーの越智氏が「危
機管理責任者の責務と行
動原理」を語る。

会場では、救命胴衣に
セットする薄型バッテリー
を初めてお披露目。カ
越智氏と言う。

第2部は津波対策とコ
ロナ対策について、ワー
クショップ形式で勉強会
を開く。
「3月11日は東日本大震
災から11年目。いま何を
すべきかをみんなで情報
交換することが必要」と
越智氏と言う。

日本海溝モデルの死者数（冬・深夜、早期避難率低） 一：わずか

	建物倒壊		津波	急傾斜 地崩壊	火災	ブロック 塀・自動販 売機の転倒、 屋外落下物	合計
	（うち屋内収容 物移動・転倒、 屋内落下物）						
北海道	—	—	約137,000人	—	—	—	約137,000人
青森県	約30人	約10人	約41,000人	—	—	—	約41,000人
岩手県	約20人	約10人	約11,000人	約20人	—	—	約11,000人
宮城県	約10人	—	約8,500人	—	—	—	約8,500人
秋田県	—	—	—	—	—	—	—
山形県	—	—	—	—	—	—	—
福島県	—	—	約800人	—	—	—	約800人
茨城県	—	—	約600人	—	—	—	約600人
千葉県	—	—	約100人	—	—	—	約100人
合計	約60人	約20人	約199,000人	約20人	—	—	約199,000人

▲内閣府が発表した日本海溝で巨大地震が起きた際の死者数のシミュレーション（冬・深夜、早期避難率低）